

專 門 分 野 II
小 児 看 護 学

小児看護学のねらい

小児期は、ヒトから社会的存在としての人間へと、絶え間ない成長・発達を遂げる時期である。小児看護学はこのようなライフステージにある子どもの健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての子どもが健全な成長・発達を遂げられるよう、子どもと家族（養育者）を支援することを目的としている。変化する社会の中で子どもの人権を守り、子どもを全人的に捉えること、子どもと家族の置かれている状況を的確に判断し、成長・発達やさまざまな健康状態に応じた看護を学ぶ。

「小児看護学概論」

小児期が人間形成の基盤として重要な時期であることを前提とし、子どもの成長・発達と健康増進、子どもの成長・発達に重要な影響力を持つ家族の役割、子どもの最善の利益を考えた地域ぐるみのヘルスプロモーションやセイフティプロモーションについて学ぶ。

「小児の発達段階に応じた看護」

子どものライフスタイルや健康は、子どもを取り巻く環境と、家庭、地域の在り方に強く規定され、その中で日常生活行動を獲得し、健康管理行動を発達させる。発達段階に応じた日常生活の特徴を理解し、健康増進に向けた健康生活のありかたを学ぶ。

「小児の健康状態に応じた看護」

小児期は、身体的、精神的にも未熟であることから健康上の問題を引き起こしやすい。また医療技術の進歩は、多くの子どもの命を救うこととなったが、一方で子どもの病気は重症化し、入院生活を余儀なくされることもある。こうした状況の中で、21世紀を担う子ども達が最善の利益を守られ、健やかに成長・発達することができるようにさまざまな健康状態に応じた援助について学ぶ。

「治療を受ける小児の看護」

健康問題・障害をもつ子どもと家族の共通する問題の捉え方、看護援助に役立つ理論と実践方法を講義と事例を通じて理解する。また、検査・処置、手術、隔離・活動制限、救急などのさまざまな状況に応じた看護の方法を学ぶとともに、小児特有の技術については校内実習による実践を通して習得する。

「小児看護学実習」

小児看護学の臨地実習は、子どもが集まる生活の場と、治療や看護を受けながら生活をする場

において、看護職者の立場で子どもに必要な援助を実践する。対象者に向けて看護行為を行い、学内の学びを自ら臨地実習の場で検証し、看護の方法について「知る」「わかる」段階から「使う」「実践できる」段階へと理解を深める。この学習過程では、学内で学んだ小児看護の知識・技術・態度の統合を図りつつ、子どもとその家族に対する看護の方法を習得する。

小 児 看 護 学

【目 的】

小児看護の対象である子どもの特徴を理解し、成長・発達に応じた養護と、各健康段階にある子どもおよびその家族に対する看護ができる基礎的能力を養う。

【目 標】

- 1 小児看護の理念・目的を理解できる。
- 2 小児各期の成長・発達と子どもを取り巻く環境の意義を理解できる。
- 3 健康な子どもの日常生活を理解し、対象に必要な看護ができる基礎的知識・技術を習得できる。
- 4 小児各期に特有な健康問題と、健康を障害された子どもと家族を理解できる。
- 5 健康を障害された子どもと家族に適切な看護ができる基礎的知識と技術を習得できる。

【構成および計画】

<講義>

授 業 科 目	単位数	時間数	学年別計画時間		
			1年	2年	3年
小児看護学概論	1	30	1(30)		
小児の発達段階に応じた看護	1	15		1(30)	
小児の健康状態に応じた看護	1	30		1(30)	
治療を受ける小児の看護	1	30		1(15)	
合 計	4	105	1(30)	3(75)	

<臨地実習>

科 目	実習内容	単位(時間)	時 期
小児看護学実習	地域で生活する子どもの看護 健康を障害された子どもの看護	2(90)	2~3年次
合 計		2単位(90時間)	

科目 小児看護学概論 1単位 (30時間)

科目目標：子どもを取り巻く社会の中で、小児看護の対象と小児看護の役割・機能を理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
小児看護の 概念	4	1 小児看護の理念と 目的を理解できる 2 小児看護における 子どもの人権につ いて理解できる	1 小児看護の理念・特徴・目的 2 こども観・小児看護の変遷 1) 子ども観の変遷 2) 小児医療の変遷 3) 小児看護の変遷 3 小児看護の課題 1 小児看護の倫理 1) 子どもの人権 2) 児童憲章 3) 児童の権利に関する条約 4) インフォームド・アセント 5) アドボカシー	専任教員
子どもの成長 ・発達	12	子どもの特徴や成 長・発達が理解でき る	1 子どもとは 1) 小児期と区分 (各法律からみた区分と定 義) 2 子どもの特徴 1) 全体的特徴 2) 小児期の発達課題 3 成長・発達の原則 4 成長・発達に影響する因子 1) 遺伝的因子 2) 環境的因子 5 小児各期の成長発達 1) 形態的成長 2) 機能的発達 3) 心理・社会的発達 (1) 認知 (2) 情緒 (3) 社会性 (4) コミュニケーション (5) 遊びと学習 6 成長・発達評価の方法 1) 身体発育の評価 2) 精神・運動機能の評価 3) 養育環境のアセスメント	
子どもと環境	6	1 子どもを取り巻 く社会的環境とそ の動向、社会的にみ た子どもの健康上 の課題を理解でき る	1 子どもと環境 1) 子どもと家族 2) 子どもと社会 (1) 子どもと家族を取り巻く環境の変化 (2) 社会の変化 (3) 現代社会と小児	

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
小児保健対策	6	<p>2 子どもの健康生活を守るための虐待防止について理解できる</p> <p>小児保健統計をふまえ、子どもを保護する法律や保健対策を理解できる</p>	<p>3) 子どもの安全 (1)不慮の事故 (2)安全対策・安全教育 (3)予防接種</p> <p>1 児童虐待が疑われる子どもと家族の特徴 1) マルトリートメント 2) 児童虐待の分類 3) 予防と早期発見 4) 小児看護の役割 5) 多職種との連携・協働</p> <p>1 子どもと保健 1) 統計からみた子どもの健康 (1) 出生率 (2) 乳児死亡 (3) 子どもの死亡 (4) 子どもの疾病・異常被患率 2) 子どもを保護する法律と保健対策 (1) 児童福祉法 (2) 母子保健法 (3) 予防接種法 (4) 学校保健安全法 (5) 少子化社会対策基本法 (6) 次世代育成支援対策推進法 (7) 発達障害者（児）支援法 3) 社会資源 (1) 未熟児養育医療 (2) 自立支援医療（育成医療） (3) 小児慢性特定疾患の治療・研究事業 (4) 乳幼児医療費の助成</p>	
まとめ・試験	2			

科目 小児の発達段階に応じた看護 1単位 (15時間)

科目目標：子どもの発達段階に応じた日常生活の特徴を踏まえ、健全な成長発達、健康増進に向けた看護を理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
発達段階に応じた健康生活と看護	10	<p>1 新生児・乳児とその家族への看護が理解できる</p> <p>2 幼児とその家族への看護が理解できる</p> <p>3 学童とその家族への看護が理解できる</p> <p>4 思春期にある子どもと家族への看護が理解できる</p>	<p>1 新生児・乳児の健康増進と安全な環境の提供</p> <p>1) 授乳・離乳と栄養 2) 運動と遊び</p> <p>3) 予防接種 4) 感染予防</p> <p>5) 事故防止</p> <p>2 家族への援助</p> <p>1) アタッチメント・分離不安</p> <p>2) 母子保健サービスの活用</p> <p>* 早期新生児の看護は母性看護学で学ぶ</p> <p>1 幼児の健康増進と安全な環境の提供</p> <p>1) 基本的な生活習慣の確立</p> <p>2) 食生活と栄養・食育</p> <p>3) 自我の発達と遊び</p> <p>4) 感染防止</p> <p>5) 事故防止</p> <p>2 家族への援助</p> <p>1) 家族指導</p> <p>2) 地域保健サービスの活用</p> <p>1 学童の健康増進とセルフケアの発達</p> <p>1) セルフケアと保健教育</p> <p>2) 食生活と食育</p> <p>3) 学校への適応</p> <p>4) 学習と遊び</p> <p>5) 事故防止</p> <p>2 家族への援助</p> <p>1) 学童の情緒と仲間や家族との関係</p> <p>2) 学童の問題行動と対応</p> <p>1 思春期の子どもの健康増進とアイデンティティの確立</p> <p>1) 食生活</p> <p>2) 親からの自立</p> <p>3) 異性への関心</p> <p>4) 生活習慣の予防</p> <p>5) 第二性徴</p> <p>2 家族への援助</p> <p>1) 情緒的变化と家族関係</p> <p>2) 思春期の問題行動と対応</p> <p>3 小児の性意識の変化と逸脱行動</p> <p>* 性教育については母性看護学で学ぶ</p>	専任教員

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
日常生活援助 技術	4②	子どもの日常生活に 必要な援助技術を習 得できる	1 日常生活の援助技術 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 校内実習（2H） 1 乳児の抱き方（哺乳時含む） 2 おむつの交換 3 衣服の着脱のしかた </div>	
試験	1			

科目 小児の健康状態に応じた看護 1単位 (30時間)

科目目標：小児期にみられる健康問題の特徴を踏まえ、さまざまな健康状態に応じた子どもとその家族に必要な看護を理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
子どもの入院 環境	4	1 子どもの入院環 境が理解できる	1 物理的環境・人的環境 2 病院における子どもの権利 3 小児看護に多い事故の種類と内容・安全管 理	専任教員
		2 病気・入院が子 ども・家族に与える 影響を理解できる	1 発達段階による病気の理解度と対処能力 2 影響に関与する因子、ストレス表現 3 家族への影響 4 影響を最小限にするための援助	
在宅・通院治 療を受ける子 ども	2	在宅医療・通院治療 を受ける子どもと 家族の看護が理解 できる	1 小児外来における子どもと家族の看護 2 家庭での看護（在宅医療） 1) 健康状態・生活状況の把握・生活指 2) 医療的ケア（吸引、経管栄養、在宅酸素） 3) 保育園・学校などでの支援システム 3 他職種との連携と社会資源の活用	
小児期特有の 健康問題と看 護	6	1 ハイリスク新生 児と家族の看護が 理解できる	1 低出生体重児の特徴 2 ハイリスク新生児の集中治療と援助 3 親子・家族関係の促進	医師
		2 先天的な問題を もつ子どもと家族 の看護が理解でき る	1 先天異常の種類と特徴 1) 染色体異常 2) 代謝異常 3) 形態異常 2 家族の理解と子どもの受容への看護 3 養育に必要な家族の心理的準備とケア技 術	
		3 心身障害のある 子どもと家族の看 護が理解できる	1 心身障害の捉え方 2 発達障害 3 心身障害の受容 4 子どもと家族の日常生活支援と社会資源 の紹介	
健康障害をも つ子どもと家 族の看護	14	1 急性状態にある 子どもと家族の看 護が理解できる	1 急性的な経過をたどる疾患の特徴と看護 2 発熱時の看護 3 下痢・嘔吐・脱水時の看護 4 呼吸困難時の看護 5 けいれん時の看護	専任教員

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
特別な支援を必要とする子どもと家族	2	<p>2 慢性的経過をたどる疾患をもつ子どもと家族の看護が理解できる</p> <p>3 終末期にある子どもと家族の看護が理解できる</p> <p>1 災害時の子どもと家族の看護が理解できる</p> <p>2 虐待を受けている子どもとその家族への看護が理解できる</p>	<p>1 病気の時間的経緯と急性増悪</p> <p>2 子どもと家族の生活の変化</p> <p>3 長期的治療を要する子どもの発達とセルフケア</p> <p>4 家族のストレス緩和・対処支援</p> <p>1 子どもの死の概念</p> <p>2 死の不安と別離の不安</p> <p>3 子どもへの病気の説明</p> <p>4 終末期にある子どもの状態と緩和ケア</p> <p>5 子ども死を看取る家族へのケア</p> <p>1 災害による子どもの影響とストレス</p> <p>2 災害時の子どもと家族への援助</p> <p>3 災害時における緊急度の把握・トリアージ</p> <p>1 子どもへの虐待の特徴</p> <p>2 虐待のリスク要因と虐待の早期発見</p> <p>3 虐待の未然防止に向けての支援</p> <p>4 多機関・他職種連携・協働</p>	
まとめ・試験	2			

科目 治療を受ける小児の看護 1単位 (30時間)

科目目標：子どもとその家族の看護上の問題を解決するための方法を理解すると共に、検査・治療・処置を必要とする子どもの看護技術を習得する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
治療・検査を受ける子ども	12④	1 治療・検査を受ける子どもと家族への看護が理解できる	1 発達に応じた説明と同意 2 子どものバイタルサイン測定 3 検査処置の前・中・後の観察と安全安楽への援助 1) 採血 2) 採尿 3) 骨髄穿刺 4) 腰椎穿刺 5) 与薬 6) 輸液療法 7) 吸入・吸引 8) 酸素療法 9) 経管栄養 4 ディストラクション <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 校内実習〈4H〉 1 バイタルサイン測定 2 経口与薬 3 吸引（治療上必要な部分固定を含む） 4 身体計測（身長・体重・頭囲・胸囲） 5 保育器の取り扱い（見学） </div>	専任教員
		2 活動制限の必要な子どもと家族の看護が理解できる	1 活動制限の目的 2 身体的・心理的・社会的影響 3 ストレス対処への支援 4 家族への支援	
		3 感染予防対策上隔離が必要な子どもと家族の看護が理解できる	1 隔離の目的・方法 2 身体的・心理的・社会的影響 3 感染予防と日常生活の援助	
手術を受ける子ども	4	1 手術を受ける子どもと家族の看護が理解できる	1 手術を要する健康障害と手術の時期 1) 計画手術と緊急手術 2) 日帰り手術 2 周手術期の援助 1) 術前準備 2) 準備状態の把握 3) プレパレーション 4) 安全・安楽への看護と家族の援助 5) 手術後の身体状態のアセスメントと看護	看護師

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
救急処置を要する子ども	2	2 痛みを表現している子どもと家族の看護が理解できる	1 年齢別に見た痛みの援助方法 1) 痛みの受け止め方 2) 痛みの表現方法 3) 痛みの客観的評価 4) 痛み緩和への援助	専任教員
子どもの特徴をふまえた事例展開	10	救急処置を要する子どもと家族の看護が理解できる	1 小児救急におけるトリアージと対応 2 主な誤飲物質と処置 3 熱傷の特徴・受傷度及び処置 4 溺水と処置 5 心肺蘇生法 6 乳幼児の意識レベル	
		事例展開を通して子どもと家族の看護を理解できる	1 小児看護過程の特徴 1) 成長・発達の視点 2) 家族の視点 3) 健康状態 2 子どもの特徴をふまえた事例展開	
まとめ・試験	2			